

豊かな心を培う情報機器の活用とその可能性

インターネット情報の教材化を生かした効果的な授業をめざして

浦添市立宮城小学校教諭

前 城 努

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究仮説	1
IV	研究内容	2
	1 テーマの捉え	2
	2 研究構想図	2
V	研究の実際	3
	1 情報化の可能性と課題	3
	2 教材（価値のある情報）の選定	5
	3 インターネットの活用	5
	4 インターネット情報の教材化	7
VI	検証授業	8
	1 教材名	8
	2 授業観	8
	3 教材について	8
	4 児童について	8
	5 本時の授業目標	9
	6 留意点	9
	7 授業展開	10
	8 メッセージメール	13
	9 検証授業の評価	15
VII	研究のまとめ	16
	1 研究の成果	16
	2 今後の課題	16
	3 終わりに	17
	*資料・参考文献	17

豊かな心を培う情報機器の活用とその可能性

インターネット情報の教材化を生かした効果的な授業をめざして

【要約】

我々人間が情報を得る術は時代とともに大きく変化を続けてきた。中でも近年の情報機器の発達はめざましく子供でも気軽に多くの情報を手に入れることが可能となっている。そのため、我々大人社会は情報が子供に及ぼす影響を常に様々な視点から見守ることや、氾濫する情報の中でも子供に対してより教育的で価値のある情報とは何かを常に考える必要性が高まっている。このような背景のもと、本研究ではインターネットを活用することでより新鮮で価値のある情報を取捨選択し、それらを効果的に授業に生かし子供の心の内に投げかけることで、子供の心に変容をもたらそうと試んだ。

その結果①リアルで価値のある情報を与えることは子供の心に確実な変容をもたらすことができる。②コンピュータやインターネット等も活用次第で児童の心に新鮮なイメージをもたらし、人が持つ心の温かさや豊かさにあらためて気づかせることに有効である。といった成果が確認できた。

キーワード □ 情報教育 □ インターネット □ 豊かな心 □ 教材開発

I 主題設定の理由

近年の社会における情報環境はめまぐるしく変化を続け我々個人が得る情報もその内容を日々細分化また増大化しつつある。このような情報の多様化は政治・経済・医療そして教育等実に様々な部分で豊かさや利便性をもたらし、遠隔医療の向上や宇宙開発への貢献そして教育効果の向上等は、その一例である。しかし、その一方で子ども達が氾濫する情報に翻弄されたり、犯罪の動機の一つになるといった事実等、子供への影響も懸念されている。そのため我々は①価値のある情報を見極めることや、②情報を取捨選択し効果的に与える為の手だてを日々探求することが必要となっている。

またそれは高齢化社会の到来とも重なることで多くの情報の中から価値のある情報を適切に獲得し、それを生かして平和で物心ともに豊かな社会作りに貢献する人材の育成とも大きく結びつくものであると思われる。

以上の視点から本研究では、近年そのめざましい発達のもとに多くの利便性と可能性が注目されてい

る情報機器と、インターネットの有効な活用を通して、豊かな心の育成を試みたい。

検証の場においてはその時間的・経済的な利便性に加えてwww*1を通して得られる豊富な情報をもたらす教育的な活用の可能性を鑑み、インターネットをモデルに効果的な授業作りを目指そうと本主題を設定した。

II 研究目標

インターネットの価値のある情報を探求しそれを効果的に与えることで、児童の心に変容をもたらし、豊かな心の育成をめざす。

III 研究仮説

- 1 子供の健全な心の発達に対して価値のある情報を探り、それを効果的に与えることができれば心の変容を期待できるであろう。
- 2 コンピュータやインターネットの持つ豊富な情報やその双方向性を生かせば、情報機器の活用における新たな可能性を見出すことができるであろう。

*1World web (ウェブ) と呼ばれる情報リンク網

IV 研究内容

1 テーマの捉え

近年、子供と情報との関わりを見ると10才から18才までのどの年齢でも「なくてはならないと思う程に大切なメディア」として会話よりもテレビの方が圧倒的に高い割合を示している。(表1) また小中学生が気晴らしの為によく利用するメディアとしてもマンガやテレビそしてテレビゲームが上位を占めている。特にテレビやファミコンについては(表2)に見られるようなかなりの割合で接触しており、心身が未発達な子供達への情報の影響性が危惧される場所である。

情報化の先進国とも言われるアメリカでは60年代からテレビを中心としたメディアによる児童向けドラマやアニメーションの暴力的なシーンが子供達に与える影響や、現実とフィクションの識別が曖昧な子供達への商品コマーシャル的な番組のあり方が問われ続けられている。近年、これに対するクリントン大統領の姿勢も「規制派」の推し進める「Vチップ」*1を支持する方針となり98年からは各家庭のテレビに設置することが義務づけられることとなっている。

しかし、わが国においては未だそのような動きもなく依然として目を覆いたくなるような残虐なシーンが昼間の番組やケーブルテレビの中で放映されている。また、性を売り物にした番組が深夜に至らない時間にも無秩序に放映されている。

このような問題はけしてテレビだけの問題ではなく情報と物資の溢れた現代においては至る所に存在しておりこれからの情報教育における一つの重要な課題と言える。

しかし本来情報化は我々人間に未知なるものを知らしめ、人間の持つ能力を補うものである。そしてこれまでにない新たな可能性を手に入れる術としてもその大きな役割を担うものである。

そこには我々が豊かで幸せな社会を築き上げようとする大きな夢と希望が存在するものである。本研究はこのような視点から子供と情報の相関関

係を見極め、豊かで価値のある情報による、有効で効果的な授業の構築を目指すものである。情報の素材には近年国内外に山積する福祉の問題に焦点をあて、それらをインターネットや既存のコンピュータで情報を収集・加工し教材化をはかり、それらを効果的に伝達することで児童の心の内に投げかけることを試みたい。

表1 なくてはならないメディア

男子 (10~12才)		女子 (10~12才)	
テレビ	72・5%	テレビ	78・0%
TVゲーム	42・1%	会話	49・7%
マンガ	37・9%	電話	45・7%
会話	32・5%	マンガ	35・8%

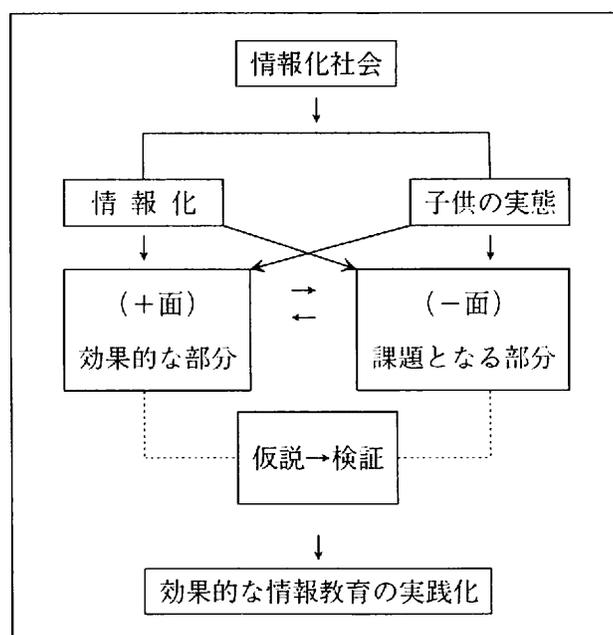
(総務庁第2回情報化社会と青少年に関する調査)

表2 テレビゲーム等で遊ぶ頻度 (小学生)

いつも遊んでいる	24・1%
時々遊んでいる	47・7%
あまり遊んでいない	16・0%
ぜんぜん遊んでいない	12・0%
わからない。その他	0・3%

NHK「小学生の生活と文化調査 (平成6年度)

2 研究構想図



*1 半導体を用いた装置をテレビ内部に組み込むことで一定の番組を受像できなくすることができる

V 研究の実際

1 情報化社会における可能性と課題

情報化の流れが子供に与える影響を考えると子供の学習へ知的探求心の向上を始め様々な面で大きく貢献している。特にコンピュータを始めとする情報機器の発達インターネットやパソコン通信、また教材CD-ROM等といったマルチメディア機器の一般化をもたらした。その結果、これまでの教師の説話やテキスト・図鑑等の応用が中心となった学習とは異なりカラー画像や音声、動画を見ることも可能な学習環境が実現化されつつある。

その他直接的なコミュニケーションが苦手な子供や他者との人間関係が不得手な子供にとってもこれらの機器が媒介となってコミュニケーションを築き、信頼関係を深めることで次第に直接的なコミュニケーションへの移行が可能となった事例も報告されている。また最近では心を内側に閉ざしがちな子供がより社会へ適応しようとする過程でも大いに役立つものと注目され、すでにその応用化が始まっている。(表4)



情報化が子供に及ぼす影響を考察する時に見逃せないのが豊かな人間性の喪失や他との協調性の欠如に繋がる事への不安である。かつて人と人との会話が情報コミュニケーションの中心であった時代にはその情報源が人である限り、むやみにその場を放棄したり安易に提供源を替えるという選択肢は存在しなかった。またそのような環境からは情報も人の醸し出す様々な雰囲気を通してより人間的に伝えられていった。しかし家庭に多くの情報機器が備わる現代においては情報が溢れ、氾濫した状態である。そのような中では情報のチャンネルを気軽に変えたりスイッチを切ることで自分に不都合なことや気に入らないことを放棄してしまうことも簡単な行為である。無機的で安易な情報取捨選択行為の積み重ねが心身の発達途上の子供が及ぼす影響という視点からはけして好ましい環境であるとは言えず今後の情報教育に課せられた深刻な課題と言えるのではないか。(表3)

*表3 情報ストック量の比較 (S/59→H6)

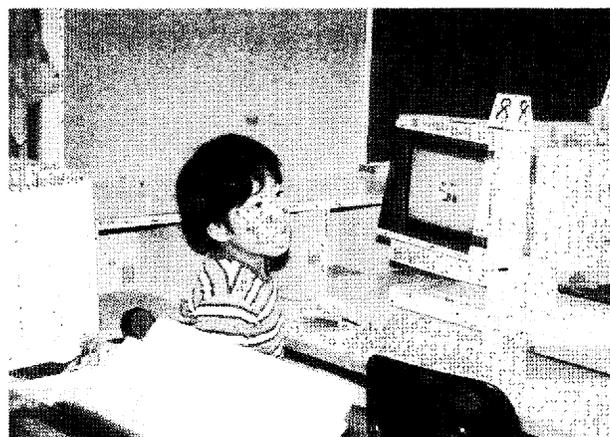
地上系テレビ	13・2倍	一人あたり情報ストック量の伸びは沖縄で1・65倍 全国平均以下 対H2年度比
ビデオソフト	12・6倍	
ケーブルテレビ	26・8倍	
パソコンソフト	7・0倍	
レンタルビデオ	264・0倍	
CD-ROM	16・5倍	

H8通信白書・情報化の動向(郵政省編)

表4 資料 情報化による可能性と未来的展望

情報化による可能性	その他	政治経済	政策や施策の情報収集、政府機関等の情報収集、データベース的活用、国内外経済の動向、物価・株価等の把握、各企業団体による宣伝広告、サービス情報	
		医療福祉	在宅介護・看護時における遠隔診療（画像の活用等）医療・保健・衛生データベース専門医療機関によるQ&A、発展途上国への医療支援、各種フォーラム	
		文化教養	国内外の博物館や美術館の展示品等の鑑賞、演劇・コンサート等の鑑賞・観劇、世界遺産等を見る、外国文学を読む、歴史・文化の調査、国内外大学の講義の受講	
	国際理解	HMP	ユニセフ	戦争や飢餓に苦しむ子供の実態を知らせ21世紀の課題を認識させる
			諸NGO	世界中で活躍する民間のボランティア団体の活躍の様子を知らせる
			その他	異国の学校のホームページ等を通して地域の文化や歴史に気づかせる
		EM	国外	外国の友人を得たり、交流を図る
			国内	他府県の友人との交流や在日外国人との交流・意見交換等
		福祉	HMP	福祉施設
	医療施設			特に高齢化社会を目前にした、各種のデータからの教材化等
	諸NGO			各NGOのホームページ等を利用しボランティアの実状に気づかせる
	個人その他			近年多くの障害者がインターネットを通して情報を発信している
	EM		障害者	障害者との交流やメールを元にした授業の実践→福祉・道徳教育
			老人	「お年寄り」の知恵袋を活用、人生相談、子育て、教育相談等
	学校教育	HP	情報センター	教育情報の収集、教育ボランティア、退職教員による支援・助言相談
			相談センター	E・メールと連携させたいじめや悩みごとへの対応、事例紹介やQ&A
		EM	不登校児	生徒の好きな画像や音声を駆使した交流を通して新たな可能性を図る
			学習支援	学習遅進児や長欠児への個別指導、各種アドバイス、質問への対応
			遠隔教育	入院・自宅療養中の児童への精神面、学習面、友人づくり等の支援
			その他	情報のナビゲータ、各ホームページへの水先案内人的な役割機関設置

*HP・HMP・・・Home-Page *EM・EML・・・E-Mail



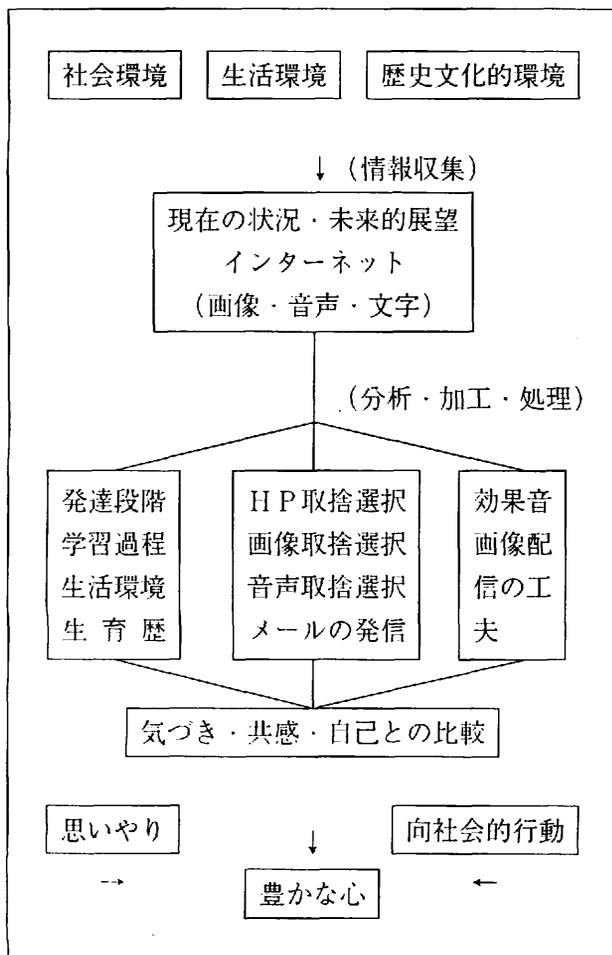
2 教材（価値のある情報）の選定

本研究では子供の心に「豊さ」をもたらすことを目標に授業の構築をめざした。

授業構成の重要な要素となる新鮮で価値のある情報の獲得・加工・提示である。その手段として、本校既存の「コンピュータ」や、情報の新鮮さと豊かさが注目されている「インターネット」を活用することで授業の実践化を図った。

コンピュータやインターネットを活用して子供の心に豊かさや変容を期待することはこれまでのイメージからいかにも相反する両者である。しかし表5のモデルに見られる「共感性」を通して、それぞれの思いを深めることができれば確実に児童の心に価値のある変容をもたらすことが可能であると考えた。

表5 豊かな心を育む過程

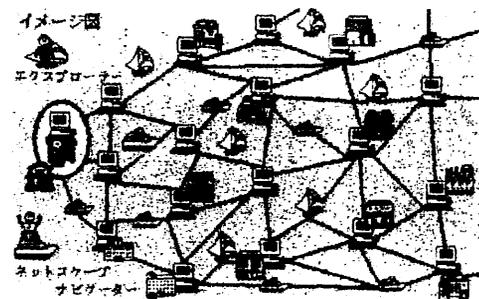


3 インターネットの活用

インターネット (internet) は本来軍事目的の情報通信ネットワークであったものが近年では民間の大学や企業を始め個人レベルでも利用が可能になった地球規模の情報ネットワークである。一般の利用者は主に電話回線を用いて接続するが、経済的なコスト面や技術的な面から多くの場合プロバイダー (provider) と呼ばれるインターネットへの中継接続業者が利用されている。

インターネットはWorld wide Web (ワールド・ワイド・ウェブ通称WWW・ウェブ) と呼ばれる世界中が蜘蛛の巣のようにリンクされた情報システム網である。利用者はブラウザと呼ばれる情報閲覧用のソフトウェアを使いこの無限のつなぎ目をそれぞれの目的や状況に合わせて一つ一つたどって行く。

インターネットという世界の中に広がるWWWという情報の海の中をブラウザという船に乗ってsurfing (波乗り) している状態とも言える。マイクロソフト・エクスプローラー (探検家) やネットスケープ・ナビゲータ (航海者) は世界でも最も利用者の多い船 (ブラウザ) と言え、どちらも比較的安価に手に入れることが可能である。利用者は文字を中心としたテキスト情報を始め、画像や音声情報を送受信する。情報の拠点となるのはWWW上の結び目であるHTML (Hyper Text Mark-up Language) というコンピュータ言語によって作成されたホームページである。



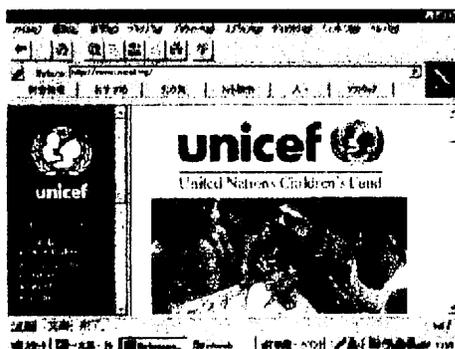
(1) ホームページについて

ホームページ (Homepage) はインターネット上において様々な目的で情報を提供しようとする組織や企業そして個人が、情報の内容を紹介す

るために持つページである。そこでは文字だけでなく画像や音声扱えることで近年では遠隔教育や遠隔医療を始め金融機関と提携することで営利目的での情報提供を行ったりショッピングも可能となっている。ホームページへの効率的なアクセスにはホームページの場所URL→(Uniform Resource Locator)を指定し、ブラウザに入力することでアクセスができる。

ホームページは数え切れないほど存在し蜘蛛の巣のようにそのリンクを拡げつつある。そのためホームページの中には世界中のインターネット情報をカテゴリー毎に分類整理し検索を専門とする情報提供ページも少なくない。そこでは自分の知りたい情報のキーワードを入力し段階的に絞り込むことで関連するホームページを見つけだしたり、目的の情報を手に入れることができる。またWWW上の情報はすべてデジタル化されていることから容易に自らのパソコンにそのデータを取り入れたり印刷することも可能である。

授業では近年地球規模で課題となっている難民やストリートチルドレンの問題等を中心に焦点化し多くの事実や真実といった情報の収集を図ろうと関連するホームページの検索を試みた。中には全文英語のページもあったが、英文翻訳ソフト等を併用することで翻訳時間の短縮を図ったり、難解な英文の和訳に利用した。



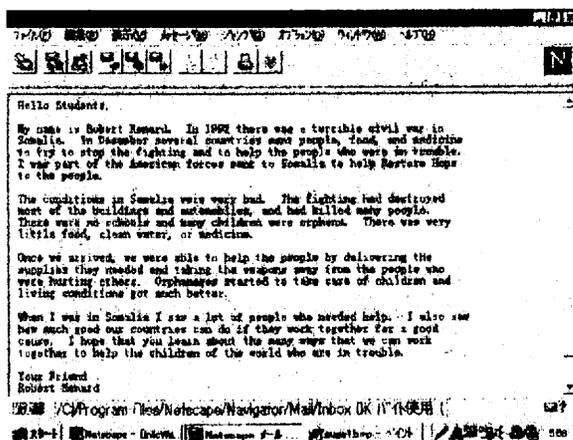
(2) 電子メール (E-mail) について

電子メールはE-mail(イーメール)とも呼ばれ、コンピュータ利用者間において文字・画像・音声といったメッセージを送受信するものである。この機能を使うことで現在およそ160カ国以上の

国々との間で短時間で安価に情報コミュニケーションが可能である。最近ではブラウザに付加されているメール機能を使うことにより、メッセージと先方のアドレスを書き込むだけで瞬時に送信したり受信することが可能である。

電子メールの利点は国内外を問わずに多くの情報をインターネットに乗せて瞬時に安価に送受信できる点である。

授業においては、これまでの教師と児童という関係だけではなく教師と児童そしてもう一人の情報提供者や解説者を得ることができる。児童がホームページを通して学んだ多くの事実を単に教室の授業だけで深化させ学習を終えるのではなく、教室の外や市外、県外、そして国外へ向けて教室からのメッセージや質問という形で送信してみることもより効果的な情報の深化へと結びつくことと思われた。授業においては児童の価値観の更なる深化を図る意味からも交流の相手を成人とする中で多くの皆様にご協力を頂きE-mailを試みた。



4 インターネット情報の教材化

宮城小学校には現在NEC-98シリーズのコンピュータが22台設置されており、およそ二人に一台の割合で利用することができる。児童らは授業やクラブ活動等を通してワープロソフトやお絵かきソフトまたSTUDY-TIMEといった学習ソフトを活用している。それぞれのコンピュータはすべて連結されておりお互いの画面をみたり見せたりすることも可能である。教師側のホストコンピュータと児童のコンピュータはPC-SEMIを介して接続

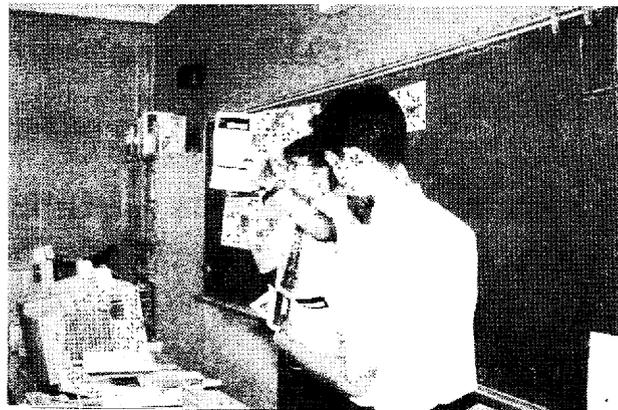
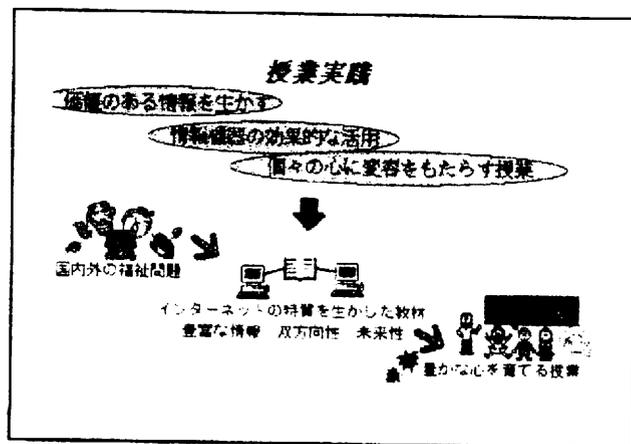
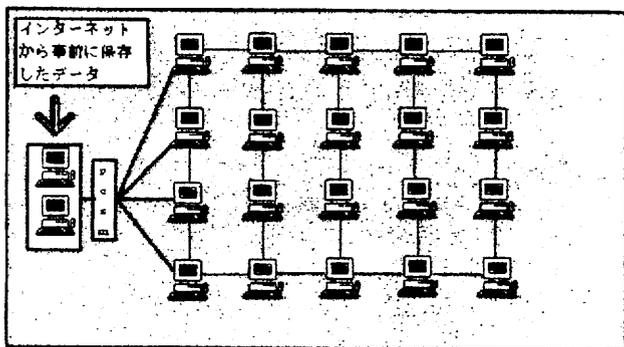
されており教師はすべての児童用コンピュータをリモート操作したり教師側コンピュータの画面画像や音声を一齐にまたは個別に送信できる。

最新のソフトへの対応という面ではハード面・ソフト面ともに十分とは言えない環境である。しかし教師側のコンピュータではCD-ROMが活用できる等といった児童側のコンピュータよりも若干性能が優れているという利点をうまく利用する

ことでより効果的な利用方法を目指している。

また現段階では未だインターネットへの接続が未整備であるため本研究の検証授業においてはあくまでもインターネットの仮想環境におけるデモンストレーションとホームページから画像等の情報を獲得・加工し教材化を図っての授業実践をめざした。

***環境設定**



VI 検証授業

1 教材名 「世界の子供たちは今」

・・・インターネットホームページより

2 授業観

飽食の時代といわれるわが国の物質文明の中で子供たちは常に溢れんばかりの情報のもとに確実な取捨選択能力も未だ未成熟のまま毎日過ごしている。しかし、その一方でアジアを始めとする近隣諸国では飢餓や戦争による難民の問題や同じ年頃の子供たちが次々にストリートチルドレンに陥ったり心ない大人の性的搾取に利用されたりと悲しい現実の日々繰り返されている。最近では多くのテレビ番組や雑誌等でこれらの事実を伝えているが、児童にとってはまだまだ対岸の火のようなあくまでも現在の自分とは無関係な事実という認識がうかがえる。インターネットを活用しこれらの事実や真実といった情報を獲得・深化させることは発展途上国における子どもの現状を認識させ児童なりの問題解決策を考えさせる学習へと導くことにつながると、考える。

そこから得られる成果は単に思いやりの心のみならず、自分たちの未来に対する夢や希望を育むことにも繋がるものと思える。次に個々の児童の思いをメールで送信しいろいろな立場の人々と、交流することによる情報の更なる深化が社会性や国際性、郷土愛の育成へと発展してくれることも合わせて願いたい。

3 教材について

近年世界の情勢はかつて見られた東西対立も解消し、人類がともに力を合わせて取り組むべき課題として発展途上国の貧困や戦争・災害による飢餓そして難民といった問題が浮上している。

中でも発展途上地域における子供達の問題はストリートチルドレンをはじめ深刻な現状にあり、世界中に貧しさゆえに死をまつ運命の子供達があふれているのが実状である。

現在世界ではおよそ1200万人の子供達が死に追いやられておりその大部分はアジア・アフリカと

いった地域における飢餓・病気そして戦争による犠牲者である。また病気による死因の約60%は肺炎・下痢・麻疹等といった基礎的な予防意識とわずかな費用で治療することのできる病気である。また幸い死に至らなくても地雷によって肢体不自由になった子供や虐待にあう子供、そして生れつきエイズに苦しむ子供達の数は何億と想定されている。

これらの問題は我々先進国の人間にとっても決して無関係とは言えず、近年注目されている環境問題や人口爆発も、発展途上国の生活形態をいかに改善できるかにかかっている。このような国々の多くが自らこのような貧困を生み出したのではなく長い歴史の中で常に行われてきた先進国による「人と資源の搾取」が大きな要因の一つである。またわが国もそんな先進国の一つであったことは歴史上の事実である。現在わが国の政府開発援助額は世界第一位である。しかし、子供を対象としたユニセフの援助は比較的少なく政府拠出額は第10位、学校や企業といった民間の拠出金は第5位、両者を足して人口で割った国民一人当たりの協力額は世界17位であり、およそ40円といった実状である。

わが国もかつて1949年から1964年までの15年の間に食料を始めとした多くの物資が援助されていた事実を振り返れば児童が例年行っているユニセフ募金の使いみちや今後の課題も見えてくるのではなかろうか。

本時では、インターネットでユニセフや国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）等といった機関のホームページから情報収集を行い教材化を図るとともにE-mail機能を利用して国内外に渡る人々への情報発信につなげたい。

4 児童について

児童は5月にインターネット・ホームページから作成された資料を通して難民問題についての授業を担当の名嘉真教諭の指導の下に学習している。

難民問題について「なぜそのようなことが起こると思いますか？」という問いに対してほとんど

の児童が「戦争」をその原因にあげ、中には「日本が金を奪っていったから」といった意見や「人民差別がおきるから」等といった一歩踏み込んだ意見も聞かれた。

次に、学級の児童に高齢化社会や老人問題、老人介護といった言葉を聞いたことがあるか？またそれはどのような意味であると思うか？と調査したところ「聞いたことがある」と答えた児童はおよそ3割り程度であった。また聞いたことがあると答えた児童等の中で「将来は若い人達がお年寄りを助けてあげなければいけない時代であることを知っていたか」という問いに対して「知っていた」と答えた児童はおよそ4人であり1割り程度である。

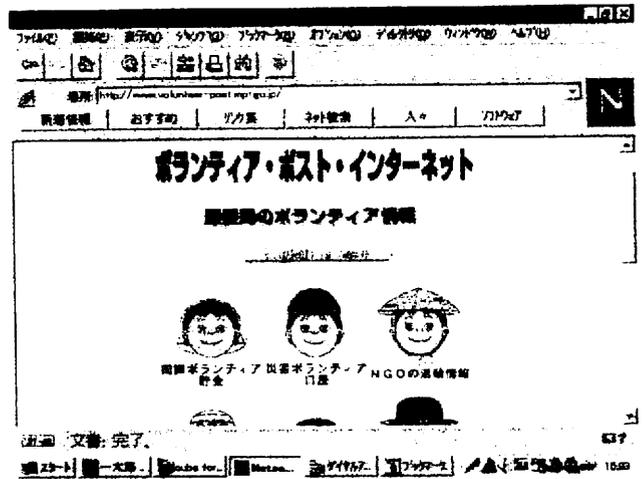
5 本時の授業目標

- ・ 飢餓や飢えに苦しむ子供達の実態に気づかせる
- ・ 自己と比較し、今の自分にも無理なくできることがあることに気づかせる。
- ・ 日々の生活における何気ない小さな思いやりを積み重ねることでも確実に世界の平和につながることに気づかせる。

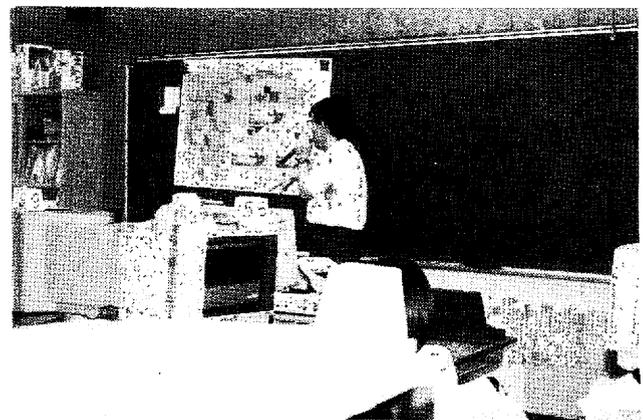
6 留意点

研究の流れが社会的弱者の存在を知らせることで自分達の優位さに気づかせたり生き方を省みさせるといった指導に陥らぬよう十分配慮する。児童の発達段階からも当初は「かわいそう」という感情が生じるであろうし、指導者もその素直な感情を積極的に認めることが大切である。しかし本授業では次のステップとなる自分を見つめ自分に無理なくできることがないか？といった部分に気づかせることへとつなぐことに重点をおいて試みる。

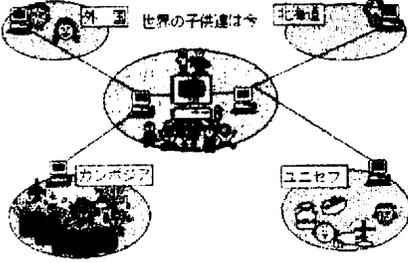
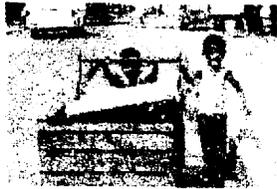
↓ 郵便局のボランティア情報のページ



↓ 国連難民高等弁務官事務所のページ



7 授業展開

学習内容	T 1 の動き	T 2 の動き	資料・留意点・その他
<p>→学習内容の確認 ～メッセージ～</p>	<p>・児童あてに届いたメッセージを読み上げる</p>	<p>・メールをプリントアウトする。</p>	<p>*機器の確認・調整 *メッセージ (P13)</p>
<p>本時の学習内容は何か？</p>			
<p>①画像を見て本時の学習内容を推察する。</p>	<p>・表情に注目させる。</p>	<p>・画像へのコメント</p>	
<p>世界の子供達の様子を見てみよう</p>			
<p>*感想・意見発表 ・かわいそう ・さびしそう ・その他</p>			<p>*地図の活用</p> 
<p>②ボスニア・チェルノブイリ・ルワンダといった地域の子供の様子に気づく</p>	<p>・難民となった国々の子供の様子や原発事故の犠牲になった子供の現状に気づかせる。</p>	<p>・画像に対する感想を発表させる。 ・地図を用いおよそ位置を把握させる。</p>	
<p>③フィリッピンを始めとするストリートチルドレンやその他人権や自由の満たされない子供の様子に気づく。</p>	<p>・年齢の低さや虐待の実態についても気づかせる。 ・自己との比較を凶らせる。</p>	<p>・フィリピンと沖縄が比較的近距離にあることや、バナナ等我々が普段親む果物の輸入先であることも説明する。</p>	<p>*バナナ、ガム、菓子類 マンゴー等</p> 
<p>カンボジアという国を知っていますか</p>			
<p>④カンボジアの地理的な条件や遺跡の様子からかつてのカンボジアの様子に気づく。</p>	<p>・かつて高度な文明を持ち人々も宗教心の篤い勤勉な国民であることに気づかせる。</p>	<p>・アンコールワットやその他の遺跡を提示しその美しさを知らせる ・およその位置を把握させる。</p>	<p>*我が国と同様仏教を信じる人々が多い。 *地図の活用</p>

<p>⑤近年のカンボジアの様子に気づく。</p>	<p>・近年のカンボジアの様子を提示する。</p>	<p>・特に子供達の様子がリアルに伝わるように配慮する。</p>	
<p>この国はなぜこのような悲惨な状態に陥ったのか</p>			
<p>*感想・意見発表 ・戦争 ・貧困</p>	<p>・ボルボト派による大量殺戮の歴史や現在に至っても未だに続いている極度な貧困の様子に気づかせる。</p>	<p>・かつてのカンボジアの様子と対比させる。 ・フラッシュカードを関連付けて提示する。</p>	<p>*最新の状況を伝える(新聞) ・対人地雷 ・難民 ・盗掘 *死因の大半が下痢や麻疹といった基礎的な知識さえあれば直すことのできる病気である。</p>
<p>⑥貧困や人材不足、教育・医療知識の乏しさ等といった実態に気づく。</p>	<p>・かつて先進国による資源や労働力の搾取があった事実を押さえる。</p>		
<p>生まれながらに不幸な運命を持つ子供達をどう思うか</p>			
<p>*感想・意見交換 ・かわいそう ・不幸だ 等</p>	<p>・自らの置かれた環境との比較を図らせる。 ・同じ人間として同じ時代に生まれている事実気づかせる。</p>	<p>・代表的な意見を板書する。 ・素直な自分の気持ちで発表するよう促す。</p>	
<p>私達にできることはかわいそうだと思うことだけなのだろうか</p>			
<p>*感想・意見発表 ・ユニセフ募金 ・赤い羽運動への参加 ・ボランティアへ参加する。</p>	<p>・「かわいそうだ」+「何か？」がないかについて考えさせる。 ・ボランティアって何だろう。</p>	<p>・代表的な意見の板書 ・具体的な事例をあげて思考を促す。</p>	<p>*諸NGOの活動の様子に触れる。 *郵便局のボラティア貯金等についても資料や貯金通帳等を通して紹介する。 *ユニセフ募金がどのように使われていたのかを知らせる。</p>

募金に参加するにはお金が必要になる。またボランティアとして発展途上国に行くこともやはり簡単ではない。もっと気軽にできることはないか。

・可能な限り児童の思いを引き出す。

かわいそうだと思う気持ちも大切だが、かわいそうだと思う気持ち+自分に無理なくできる何かを見つけることも大切ではないか。

⑦高齢化社会の到来に気づく。

・将来訪れる高齢化社会について軽く触る。(資料1)

・可能な限り児童の思いを引き出す。

自分に無理なくできる「何か」とはどんなことだろう

*意見・感想

困っている人を
・助ける
・親切にする

・机間巡視を図り必要に応じて助言を与える。

*感想・意見発表

・日々の生活における小さな親切や思いやりのある行動の積み重ねもしっかりと支援につながりその根幹となることに気づく。

・日々の生活の中での思いやりや助け合いも結果的には支援や援助に有効に結びついて行くことや、自もまたその一員であることに気づかせる。

・物やお金の直接的な支援だけが支援につながるのではないことに気づかせる。
・まとまった意見を板書する。

⑧ユニセフや諸NGO組織の活動の様子に気づく。

・ユニセフからは我が国も支援された経緯の事実を知らせる。

・昭和29年～34年までの支援を受けた様子を知らせる。

自分達の感想・意見をEメールで送ってみよう

⑨自らの意見や学習の感想をまとめワークシートに書く。

・受信・回答をくださる人々のプロフィールを紹介する。

・先に書いた児童のワークシートを紹介する。



*4人に一人がお年寄りとなる時代に、大切なこととは何か?

*児童とともに考える。

*優しさや気づきといった思いやりの心を持った子供達が大人になり平和で豊かな国際社会を構築していくことの意義を想起させる。

*自分達もその一員であることに気づかせる。

*学校給食の脱脂粉乳・衣料

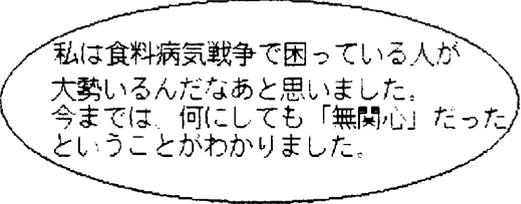


*ワークシートの内容を説明する。

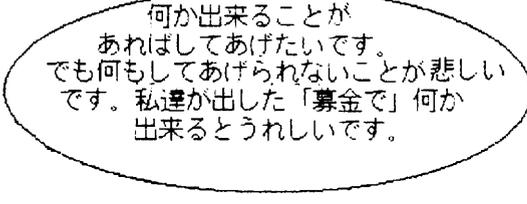
*送信先の国の様子も簡単に触れる。

9 検証授業の評価

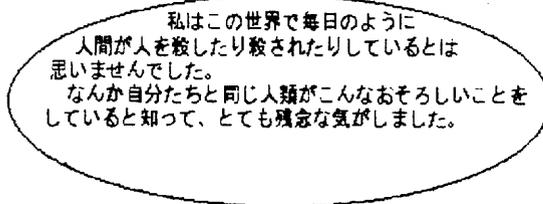
(1) 児童の感想・意見



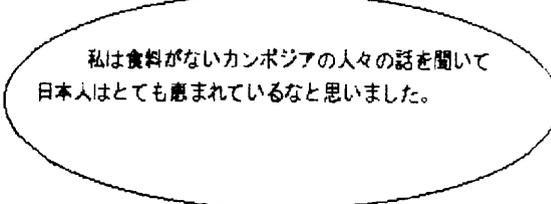
私は食料病気戦争で困っている人が大勢いるんだなあと思いました。今までは、何にしても「無関心」だったということがわかりました。



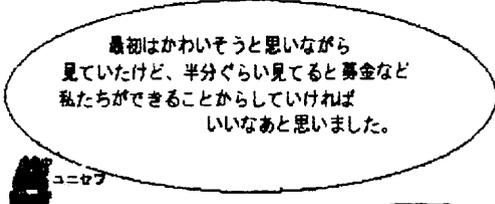
何か出来ることがあればしてあげたいです。でも何もしてあげられないことが悲しいです。私達が出した「募金で」何か出来るとうれしいです。



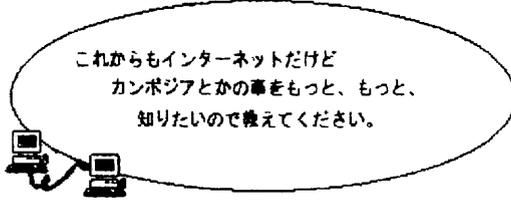
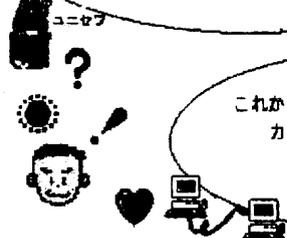
私はこの世界で毎日のように人間が人を殺したり殺されたりしているとは思いませんでした。なんか自分たちと同じ人類がこんなおそろしいことをしていると知って、とても残念な気がしました。



私は食料がないカンボジアの人々の話を聞いて日本人はとても恵まれているなと思いました。



最初はかわいそうと思いながら見ていたけど、半分ぐらい見ると募金など私たちができることからしていければいいなあと思いました。



これからもインターネットだけでカンボジアとかの事をもっと、もっと、知りたいので教えてください。

(2) 授業者の評価

今日の授業は社会科と道徳科を加えた授業であった。合科的な授業をやってみたいという思いが以前からあり、それが実現できたことは嬉しい思いがする。

内容的には多くの面で課題が山積しており、コンピュータを使って心の教育を行う試みは冒険であり挑戦であった。しかし、コンピュータでもインターネットという有効な情報伝達システムと組み合わせることによりこれまではあまりイメージできなかった形の授業を提案することにつながったと思う。

本校はまだインターネットが未整備であり本授業も近い将来環境が整った状況を想定した授業であった。実際にインターネットを接続した上で授業ができればもっと中身の濃い授業が行えたと思われる。

次にあまりに多くの情報を抱えてしまい、その取捨選択力を見失った結果、教師がしゃべりすぎてしまった。もっとたっぷりと児童に考える時間と発表しやすい雰囲気を与えるべきであった。

今後は児童が自ら情報を獲得し、どんな感想や思いを持ったかを思い切り発表させることができるような授業展開にしたい。

(3) 授業参加者の評価

- ① 多くの情報を教師はただひたすら子供たちに伝えようとしていたところは失敗である。
- ② 教師がいろいろと解説するのではなく資料を与えそれに対して子どもらが自らいろいろな思いを膨らませたり質問をしたり討議をさせる等といったことが大切ではなかったか。
- ③ 本時の内容を45分という限られた時間内で扱うにはとても無理があった。2時間～3時間扱いにしてもよかったのではないか。
- ④ コンピュータを活用するだけでなく、BGMとして音楽があったことはよかった。
- ⑤ 子供たちは恥ずかしがりながらも機会ある毎に意見を発言しようと試みていたが、どち

らの教師もその様子に気づかずにいることが何度かあった。もっと積極的に児童の様子に気を配り児童に発言のチャンスを与えそれらを拾い上げる必要があった。

- ⑥ 指導案をみると内容が常に問題提起や課題の羅列になりがちではないか。あまりくどくどと問題を提起したり、課題を述べるのではなくやはりインターネットを活用するということをことをどのように前向きに捉え、それによってどれほどの成果が期待できるかと言った点を全面にだすべきではないか。
- ⑦ 実際にインターネットをつないだ状況下で今日の授業を行ったらどうなるかが興味のあるところである。

(4) 本時の課題点についての考察

- ① 多くの情報を無理に与えるよりもそこから生まれる話し合いの内容自体を深めることが大切であった。
- ② 時間設定を見直し有効に活用できるようにする。

Ⅶ 研究のまとめ

1 研究の成果

仮説1について

リアルで価値のある情報を与えることは子供の心に確実に変容をもたらすことが検証できた。

仮説2について

コンピュータやインターネット等もその活用次第で児童の心により新鮮なイメージをもたらし、人が持つ心の温かさや心の豊かさにあらためて気づかせることに有効であることが確認できた。

2 今後の課題

- (1) 子供の情報取捨選択能力や情報活用能力を培うためのより効果的な手だてを更に探求する。
- (2) コンピュータ教育やインターネット教育における、情報と人とのより望ましい関わり方の探求に努める。
- (3) 個々の子供に芽生えた心の変容を日々の生活

に有効に反映できるようその実践化をめざす。

- (4) 頭で理解したこと、心で共感できたことを体全体で実行できる児童の育成をめざす。

3 おわりに

高度情報化社会の現在、情報化の波に単に乗る事だけでなく、時には立ち止まりあらためて足下を見直すことの大切さにも気づき始めた。特に近年のような少子化や核家族化の問題、また高齢化社会を間近に控えた現代において積極的に情報と心、そして

行動のあり方を見つめていきたい。

今後は本研究の成果を基に、さらに情報化社会と子供の実態を見つめ直すことや、近年増加傾向にある情報と心と行動が不均衡に相関する子供へのより有効な手だてを探求していきたい。

最後に半年間にも及ぶ研究のチャンスを与え支援して下さいました高原校長をはじめとする諸先生方や市教育委員会の先生方、そして田中所長、嵩原係長、當間主事、他職員の皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

参考文献・引用文献

- | | | |
|-------------|--------------------------|-----------------|
| ・総務庁 | ：平成8年「青少年白書」 | 大蔵省印刷局 |
| ・総務庁 | ：平成7年「青少年の生活と意識に関する基本調査」 | 総務庁青少年対策室ホームページ |
| ・総務庁 | ：平成7年「高齢化社会に関する調査」 | 総務庁高齢化対策室ホームページ |
| ・郵政省 | ：平成8年「通信白書」 | 大蔵省印刷局 |
| ・警察庁 | ：平成8年「犯罪白書」 | 大蔵省印刷局 |
| ・菊池章夫 | ：思いやりを科学する | 川島書店 |
| ・子供白書96 | | 日本子供を守る会 |
| ・「子供とテレビ」 | | 公文子供研究所 |
| ・全国少年補導員協議会 | ：少年問題の現状と課題 | ぎょうせい |
| ・杉原一昭 | ：今、子供が壊されている | 立風書房 |
| ・大隅紀和・宮田仁 | ：インターネットと教育 | 黎明書房 |